

委託事業実施内容報告書

平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 伊是名村教育委員会 教育長 仲田允碩

1 事業の趣旨・目的

過疎地域において学校や地域とのかかわりは不可欠である。少しでも日本語力を身につける手助けをする。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
6月12日	伊是名村産業支援センター	仲田允碩 伊礼修 元田功 儀間光仁 大城順政 瀬底あけみ 堀 見早	日本語教室運営体制	日本語教室の実施日の確認や授業内容の確認。

【写真】



3 日本語教室の開催について

- ① 日本語教室の名称 伊是名村日本語教室
- ② 開催場所 伊是名村産業支援センター
- ③ 学習目標 初級の基礎から動詞、名詞文のマスター。コミュニケーション能力の向上。
- ④ 使用した教材・リソース みんなの日本語、1課2課 ベーシック漢字ブック
- ⑤ 受講者の募集方法 村防災無線や対象者に呼びかけ(少人数なので)
 受講者の総数 15 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

(出身・国籍別内訳 フィリピン国9人、中国2人、韓国1人、タイ1人、カナダ1人、スウェーデン1人)

- ⑥ 開催時間数(回数) 60時間 (全 20回)

- ⑦ 日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語(人)	教授者・補助者人数	内容
①	7月2 19時～22時	3時間	12人	比・10人 中2人	堀 見早	自己紹介 音読、訓読
②	7月9日	3時間	9人	比・7人 中1人 スウェーデン1人	堀 見早	場所名詞 動詞文
③	7月23日	3時間	10人	比6人 中1人 韓1人 スエ1人	堀 見早	移動動詞 格助詞、疑問詞
④	7月30日	3時間	10人	比7人 スエ1人 中1人	堀 見早	助詞 時制
⑤	8月6日	3時間	8人	比5 スエ1人 中国2人	堀 見早	形容詞、 変化非過去
⑥	8月13日	3時間	8人	比5人 スエ 韓国1人 タイ1人	堀 見早	疑問詞、 移動動詞
⑦	8月20日	3時間	10人	比6人 スエ1人 中2人 韓1人	堀 見早	存在動詞 位置詞
⑧	9月10日	3時間	10人	比6人 スエ1人 中2人 韓1人	堀 見早	これまでの復 習
⑨	9月24日	3時間	9人	比8人 スエ1人	堀 見早	助数詞 文型練習帳
⑩	10月1日	3時間	10人	比7人 タイ1人 中2人	堀 見早	ベーシック漢 字12課
⑪	10月8日	3時間	10人	比 8人 スエ1人	堀 見早	みんなの日本

				韓国 1 人		語 1 3 課
⑫	1 0 月 1 6 日	3 時間	7 人	比 6 人 スエ 1 人	堀 見早	います、あります復習。位置詞
⑬	1 1 月 5 日	3 時間	3 人	比 3 人	堀 見早	「に」の用法 その他
⑭	1 1 月 1 2 日	3 時間	5 人	比 4 人 スエ 1 人	堀 見早	漢字読み書き
⑮	1 1 月 1 9 日	3 時間	5 人	比 3 人 中 2 人	堀 見早	動詞グループ 分け
⑯	1 1 月 2 6 日	3 時間	8 人	比 5 人 スエ 1 人 中 1 人 韓 1 人	堀 見早	比較：～より、 ～が。
⑰	1 2 月 3 日	3 時間	7 人	比 7 人	堀 見早	Jブリッジ 1 7 課
⑱	1 2 月 1 0 日	3 時間	7 人	比 5 人 スエ 1 人 中 1 人	堀 見早	漢字読み書き
⑲	1 2 月 1 7 日	3 時間	9 人	比 7 人 スエ 1 人 中 1	堀 見早	接続詞
⑳	1 月 1 4 日	3 時間	1 1 人	比 8 人 スエ 1 人 韓 1 人 中 1 人	堀 見早	テスト 解説

⑧ 特徴的な授業風景

復習テスト

読み書き練習



⑩ 活用した日系人等(日本語を母語としない)の名簿

氏名	母語(国籍)	来日年(日)数	参加回数	当該教室での役割
なし				

⑪ 支援者の名簿(⑩以外)

氏名	所属	専門分野及び日本語教育に関する資格	参加回数	当該教室での役割
堀 見早	人材育成センター		20回	講師

4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況

～に、～の、使い方が当初にくらべよくなった。

みんな勉強熱心で上達が早かった。

② 学習者の習得状況

日本語の読み書き、理解力が高まった。

③ 日本語教室設置運営の効果, 成果

受講生同士交流が深められ、情報交換の場所としても機能した。

④ 改善点, 今後の課題について(具体的に記述する。)

a. 現状

沖縄県でも離島の離島ということで人材不足で、講師を沖縄本島から派遣してもらってる。

b. 今後の課題

本村の活性化のためにも日本語を教える人材の育成をしたい。

c. 今後の活動予定, 展望

23年度事業申請に間に合わず、見送ったが、またぜひこの事業を活用したい。